

ありまふじ里山だより

Vol.33

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol.33は雨の日の森の様子と畑で育てている伝統野菜についてお届けします。

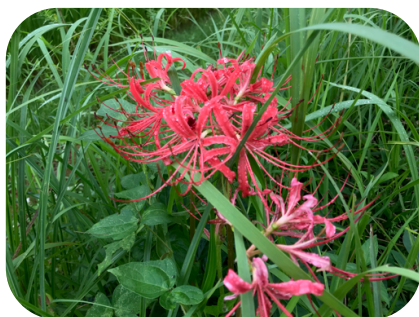


雨の日の森

先日の台風により、倒木被害はなかったものの、多くの落枝が里山散策路に散らばっていました。

雨が降りしきる森の中では、木の根元に泡の塊を発見。

調べてみると、樹幹流といって、雨水が葉から幹を伝って地表に流れていく時に、木の表面に付着したさまざまな物質を溶かしこみ、それによって泡立つことがあるのだとか。さまざまな条件が揃った雨の時だけに見られる貴重な光景でした。



畑の伝統野菜

棚田では稲が風にゆられて気持ち良さそうにしています。まわりの畔ではヒガンバナの開花が早くも見られます。

畑ではオクラやシソが収穫時を迎えています。トウモロコシは実が大きくなり、ゴマも鞘がつき始めました。

オクラは、豊岡市を中心に栽培されている兵庫県の伝統野菜の1つ、八代オクラ。トウモロコシは、甘みは少ないがモチモチとした食感が特徴の昔ながらの黄もちとうもろこし。

この畑では、生物多様性を守ることとあわせて、貴重な伝統野菜を育て、種をつなぐことにも力を入れています。

